Track Star Live: The Universal Language

「頭の中の鼻歌」を誰でも曲にする。Suno が語る、人が主役の AI 音楽づくり

音楽クイズ番組 Track Star のホスト Jack Coyne が、AI 音楽生成企業 Suno の共同創業者・社長 Martin Camacho に 6 曲を出題しながら、生い立ち・創業の経緯・プロダクト・著作権批判への回答・今後の構想を引き出した 30 分。主題は一貫して「人が持つ創作の衝動を、AI が楽器のように支える」こと。AI が一人で作るのではなく、家族・友人・アーティストと「一緒につくる」体験へ向かうと Martin は語った。

SESSION
2026-09-18 現地朝 9:00 開始・30 分 47 秒

SPEAKERS
Jack Coyne（Track Star ホスト・出題側）／ Martin Camacho（Suno 共同創業者 兼 President）

SCOPE
創業経緯・モバイルアプリ / Suno Studio・V6 モデル・ガードレール・ウォーターマーク・訴訟への回答・今後の構想

NOTE
数値は Martin の発言ベース

Peach = 人（創作者・アーティスト・ファン・プロデューサー） Rose = AI（Suno のモデル・生成機能） Ink = 数値・事実・判断 Cream = 業界・プラットフォームの前提条件

01 CONTEXT なぜ今、この対談なのか

生成 AI 音楽は「訴訟の的」から「レーベル公認」へ局面が変わった直後。Suno はその渦中で最も注目される当事者である。

Suno は V6 発表（2026-09-09）から 9 日後、著作権批判とレーベル提携の両方を抱えたまま UNBOUND の朝のステージに立った。

業界例：レーベルとの関係が二極化

Warner Music Group は 2025-11 に Suno と和解・提携し、ライセンス音源で新モデルを共同開発。一方 Sony Music・Universal Music Group は訴訟を継続中。

出典：Digital Music News / Variety / Vice（2026-09 時点）

創作者例：「鼻歌を曲にしたい」需要の顕在化

Martin は「世界で 1 億人以上が Suno を試した」と発言。利用者の大半は音楽経験のない一般消費者で、家族の日常やペットの歌など私的な創作が中心。

数値は Martin の発言。監査済みの公開数ではない

AI 例：モデル世代の更新と「透明性」の要請

V6 世代（v6 / v6-wild / v6-mini）を Warner・BMG・Believe と共同で公開。生成物の全件ウォーターマーク、アーティスト名プロンプトのブロックなどが標準装備になった。

出典：Axios / Unite.AI（2026-09-09）

02 FORMAT Track Star の仕掛け：6 曲の出題が人生と事業を引き出す

Jack は番組を「トロイの木馬」と呼ぶ。曲当てクイズの体裁で、ゲストの記憶・価値観・事業観を順に開いていく。

出題曲は無作為ではない。幼少期 → 楽器 → 音楽発見 → 反骨精神 → 「鼻歌から名曲へ」 → 現代のサンプリング、と Suno の物語に沿って並んでいる。

TRACK 01
Bee Gees
父が愛でながらいた曲。
Massachusetts

幼少期
CD ラック・Sinatra・Beatles・クラシック。雑食な家庭の音楽環境

TRACK 02
Chopin
今も弾き続けるピアノ曲

楽器との出会い
ヴァイオリンで挫折しピアノへ。「メロディが好き」の原点

TRACK 03
Justice
Hyper Machine を自己更新していた時代

音楽発見の変化
プログ・ネット探見と発信の構造を変えた 20〜30 年

TRACK 04
Beastie Boys
地下室にハードコピングロップ誕生へ

初めての一歩
「地下室で切り始めた」Suno 創業者たちとの重なり合わせ

TRACK 05
Yesterday
The Beatles（Paul McCartney）

鼻歌から名曲へ
夢で聴いた旋律を「Scrambled Eggs」と自宅で再入組けた逸話

TRACK 06
現代のサンプリング作品
パンチライン満載のアルバム

創作の境界を押す人
サンプリング・実験・多様な作風。Suno が目指す「共創」の予兆

> 音楽は「言葉にならない感情」を伝える手段だ。最高の高揚も最低の落ち込みも、曲がそこへ一瞬で連れ戻す。
> Martin Camacho — 「なぜ人は音楽に惹く組びつくのか」への回答（要約）

> 頭の中に浮かんだメロディは紙に書き留められない。だから消えてしまう。それを「置く場所」をつくりたかった。
> Jack Coyne と Martin Camacho — 創業動機についての対話（要約）

03 ORIGIN 経緯：金融 AI の会社で昼働き、夜は地下室でドラムを叩いた

Suno の創業動機は「仕事の情熱と創作の情熱を一つにする」こと。技術は先にあり、音楽への愛がそれを方向づけた。

創業チームは AI × 金融の Kensho（ボストン）出身。約 10 年前、現在の AI ブームより前に AI を実務に使っていた技術者が、音楽に転じた。

CHILDHOOD
CD ラックとピアノ
家では常に音楽。ヴァイオリン・ピアノ、思い挫折に悪まれ、今も練習を続ける

ABOUT 10 YRS AGO
Kensho（AI × 金融）
共同創業者たちとボストンで AI を金融に応用。「少し早すぎた」と振り返る

EVENINGS
地下室ジャム
共同創業者 Mikey とドラム・ラップトップ・ベースでセットで録音。「これを音の仕事にできないか」

FOUNDING IDEA
鼻歌 → 曲
ボイスメモに思った旋律を AI で曲にする。実現まで試行錯誤を重ねた

GROWTH
1 億人以上が利用
全世界・全言語で創作。多くは音楽経験のない消費者（Martin 発言）

2025-11
Warner と和解・提携
ライセンス音源での次世代モデル共同開発に合意。オプトイン／ CC BY 相当のアーティストに報酬（一次報道）

2026-09-09
V6 ファミリー公開
v6 / v6-wild / v6-mini。Warner・BMG・Believe と共同開発（Axios ほか）

04 PRODUCT プロダクト：入口は 2 つ、思想は 1 つ

初心者向けモバイルアプリと、プロ向けブラウザ DAW「Suno Studio」。どちらも「人のアイデアが材料、AI は調理器具」という構図で設計されている。

「Turn your thoughts into songs」。歌詞・鼻歌・写真・日常の出来事、どんな材料からでも曲を始め、人が編集と反復を続ける体験が中核。

モバイルアプリ FOR EVERYONE

誰が使うか
音楽経験のない一般消費者が中心。「シャワーで歌う人」が創作の趣味を持てる場所。

何を持ち込むか
- 書き溜めた詩
- 頭に残るメロディ
- 写真・出来事
- ボイスメモ

典型的な使われ方
- ラブソング・失恋の歌など、昔から曲が書かれてきた理由そのもの
- 実験や特定の人へのお祝いの歌
- 親子で「歌みがき」のような日常を曲にして共有する創作体験

Suno Studio FOR PROFESSIONALS

誰が使うか
プロデューサー・ソングライター・アーティスト。ブラウザ上のオーディオワークステーション。

何ができるか
- 新しい音色の発明
- 未経験ジャンルの試行
- メロディ・歌詞の即時検証
- 数百クリップの統合

Martin が見たセッション
- ギター演奏を 50 のジャンルに展開し、聴いたことのない音にマッシュアップ
- AI 生成のクリップを数百個組み合わせ、入が一つの作品にまとめる
- 「一晩で 50 案を試せる」ことが創作の楽しさを変える

共通する設計思想：AI は「打ち込んで出力を待つもの」ではなく、歌って・弾いて・重ねる**楽器**であり、電気ギター・サンプリング・DJ に続く新しい創作技術だと Martin は位置づける。人が材料を持ち込み、判断と編集を続ける前提は両プロダクトで同じ。

05 NUMBERS 数字で見る Suno（対談内の発言 + 一次報道）

監査済みの開示ではなく、登壇者の発言と報道の組み合わせ。単位・出典・取得日を明記する。

利用者規模とモデル更新頻度は業界最大級。

1 億+
人が Suno を試した（累計・全世界）
Martin Camacho 発言・2026-09-18・監査済ではない

3
V6 世代のモデル数（v6 / v6-wild / v6-mini）
Axios / Unite.AI・2026-09-09

100 %
生成物への全ウォーターマーク付与
Martin 発言「Suno で生成された全てに付与済み」

2/3+
社員のうち音楽演奏経験者の割合
Martin 発言（「3 分の 2 以上が楽器を演奏する」）

06 GUARDRAILS 著作権批判への回答：名前を「知らない」モデルと、全件ウォーターマーク

Jack は訴訟と「アーティスト名を打てば似た曲が出るのか」を直球で質問。Martin の回答を手順として図解する。

「Beatles 風の曲みがきの歌」と入力しても曲は出ない。モデル自体がアーティスト名を学習しておらず、UI 側でも入力をブロックしてジャンルへ言い換える二段構え。

入力：「Beatles 風の歌を」
ユーザーがアーティスト名を含むプロンプトを送る

→

UI がブロックし言い換えを提案
「Beatles と入力されました。British Rock のスタイルで作りませんか」と提示（Martin：本日時点で実装済み）

→

モデルはスタイルと感情だけで生成
British Rock・Pop・Happy/Sad・Fast/Slow など一般的な特徴のみ習。特定アーティストの名前は「知らない」設計

ウォーターマーク
Suno で生成された全音源に埋め込み済み。パートナーや広くアーティストが「Suno 製か」を判別できるように透明性目的。
Jack の質問：Anthropic がオリストニアウォーターマークを入れる計画を発表したが、Suno も同じか →「既に全件で実施している」

モデル開示
suno.com とアプリ上で、その曲に使ったモデル名と Suno Studio 使用の有無を確認できる。
ストリーミング側の表示ルールとは別レイヤー

アーティストとの対話
創業初日から対話を継続。音楽パートナーシップ部門は業界経験者・マネージャー・アーティスト本人で構成し、スタジオで得た意見をロードマップに即時反映すると説明。

07 LABELING 「AI 生成曲にラベルを付けるべきか」は二値ではなくスペクトラム

Spotify などでの AI 表示について、Martin は「開示はプラットフォームとアーティストが決めること」と回答し、その難しさを実例で示した。

プロンプト一発の完全生成と、ギターの音色を少し変えるだけの補助利用は同じ「AI 使用」ではない。Suno は自社上で使用モデルを開示し、表示ルールの判断は外部に委ねる立場。



> Martin の立場（要約）：「開示するかどうか、どう表示するかはプラットフォームとアーティストが決めるべき。Suno 側では使用モデルと Studio 使用有無を確認できるようにしてある」

> Jack の問い（要約）：「この部屋の全員、文化全体が「AI をどこまで日常に入れるか」100% 人の手か、道具として使うか」を今まさに考えている。Martin は「新しい時代、人を前面に置き、AI は道具として使う」と応じた

08 VISION 次の一手：「一人で AI と向き合う」から「みんなでつくる」へ

Jack の「鼻歌を曲にするのは実現した。次は？」に対する Martin の答え。

今の AI は「シングルプレイヤー」。音楽が本来持つ共同体・スタジオ・共有の感覚を Suno と AI 全体に取り戻すことが、V6 以降の主題。

STEP 01 · DONE
鼻歌を曲にする
ボイスメモの旋律や詩を曲へ。創業時の目標は達成済みと Martin 自身が明言

STEP 02 · NOW
V6 で品質と制御を上げる
v6（主流の音）と v6-wild（プロデューサーが新しい音・ジャンルを発明する用）、Warner・BMG・Believe と共同

STEP 03 · NEXT
ファンがアーティストの曲で遊ぶ
アーティストが許諾（オプトイン）した曲をファンが声で、共創し、アーティストに対価が入る、「楽譜を買って弾いた体験の 2026 年版」

STEP 04 · NEXT
ブランド・企業との協業
企業向けの活用を検討中と言及。具体内容は語られず

STEP 05 · GOAL
一緒につくる AI
「AI はゆはとんど自分と AI の 1 対 1」。スタジオで意見を交わすような共同創作を AI 体験に持ち込む

> **Suno は、頭の中に浮かぶメロディに「何かになる機会」を与える。誰にでも。**
> Martin Camacho — Paul McCartney の「Scrambled Eggs」逸話を受けて（要約）

> **曲が意味を持つのは、聴いた瞬間にある時間へ連れ戻される時だ。今朝も会場に来る道でそれが起きた。**
> Martin Camacho — 最後の質問「あなたにとって音楽のある瞬とは」への回答（要約）

09 DELIVERABLES 関連資料

本ポンチ絵の出典。

SOURCE
Track Star Live: The Universal Language（30 分 47 秒）

SOURCE · AXIOS
Suno launches v6 AI music models with Warner Music Group, BMG（2026-09-09）

SOURCE · UNITE.AI
Suno Launches V6 Music Models Built With Warner Music, BMG and Believe

SOURCE · DMN
Suno Faces Yet Another Data Breach Class Action Lawsuit（2026-09-17）

SOURCE · PASTE
Suno admits to using music from YouTube to train its AI models

SOURCE · VICE
Suno Is Now (Legally) Training AI on Licensed Music After First Lawsuit Settlement